



生育中盤の管理のポイント！

今年は、6月末までの少雨のため田植に苦労された方も多いと思いますが、稲の活着・分けつは良好に進んでいるようです。

早いところでは7月中旬頃から中干しの時期を迎えています。この間は稲の体を作り上げる大事な時期なので、適切な水管理で稲の健康を増進しましょう！

適期の中干しで健全な稲づくり

①目標茎数を確保したら、速やかに中干し！

中干しの期間は、おおむね、5～10日程度です。
1cm程度の小ヒビが入ったら入水しましょう。
(干しすぎは、根を傷めます)

②中干しは、余裕をもって穂肥前に終了！

幼穂（穂の赤ちゃん）ができる時期に入ってから水分不足は、減収の原因です。中干しは、出穂4週間前までに終わるようにしましょう。

中干し開始の目安

●㎡あたり茎数：300本

坪73株植（株間15cm）→ 14本

坪60株植（株間18cm）→ 16本

坪50株植（株間22cm）→ 20本

坪45株植（株間24cm）→ 22本

穂肥から出穂までの水管理

①出穂前20日をめどに穂肥を施用！

穂肥は、生育後半の栄養確保に必要です。必ず圃場に水をためた状態で施用しましょう※。

※1 落水状態で施用は、入水時に肥料ムラになることがあります。

※2 一発肥料では不要です。

②幼穂形成期以降の水管理は足かた水灌水！

この時期の水分不足は、幼穂の生育に悪影響が出るだけではありません。稲体が弱ると、その後の稲の生育バランスがくずれ、高温障害等による品質低下が起きやすくなります。根の活力維持のため、水を深くためっぱなしにせず足跡や溝に水が残る程度の水管理が望ましいです。

③台風が来たら深水にして被害回避！

風による擦り傷と、フェーン(高温・乾燥の風)による乾燥防止のため、水が充分に必要です。5cm以上の深水に湛水し、強風をしのぎましょう。フェーンが落ちついたら、根の健康維持のため落水しましょう。

水管理のイメージ図

